２０１５年９月２５日発行

地域と協同の研究センターNEWS

133号

巻頭エッセイ

私たちの「生活支援ボランティア活動：助け合い活動」

各務原市八木山地区　生活支援ボランティア活動事務局　清水 孝子

「あなたは忙しいから、体を大事にしてね。私はこんなことを言うことしかできないけれど。」と、炊き込みご飯を持参した私に、Ａさんは言いました。

Ａさんは、私たちが始めた「生活支援ボランティア活動」を、最初に利用した人です。草取り、剪定、病院の付き添い、髪のカット、買い物、ゴミ出し等で１０人を超えるメンバーが関わっています。

このまちは、４０年前にできた団地で、同じような屋並み、皆似たような暮らしと思っていた私は、困難な暮らしを強いられている人もいるのだとこの活動で知りました。

親族と包括支援センターで、施設入所を検討した時、彼女は「地域の人がよくしてくれるから、ここで暮らす。」と言ったそうです。私たちは「住み慣れた地域で最期まで暮らし続けられるまちづくり」を、お題目にしてきましたが、彼女が試金石となりました。

包括支援センターや社協には、しばしば現状を伝え、みんなで協議もしました。

「彼女がリハビリに励まないのは、元気になる目的がないからだ」と仲間の一人は言います。「ささえあいの家」で食事会をすることにしました。「ささえあいの家」まで歩くこと＝リハビリを目的としているのです。

Ｂさん姉妹は、２０代で２人暮らし。伸び放題の庭木や壊れかけた倉庫に無頓着。近所の者が、なんとかしなきゃと思い続けていた中、自治会長が音頭をとって、本人を含めて皆で片付けました。作業は３日にわたり、関わったメンバーは延べ３０人ほどになりました。

姉妹には「一人じゃない。自分に心を寄せる人がこのまちにいる」と思ってもらえたらいいなあと思います。Ａ・Ｂさん共に自分を大切にすることに、この活動が繋がればと思います。

私たちも、活動で自己有用感をもち、冒頭の言葉で、気遣ってくれる人がいること、また利用者を含め活動仲間との一体感を味わい、このまちで共に生きること、福祉のまちづくりにこのいのちを使えることの幸せを感じます。まさに助け合い活動なのです。

CONTENTS

巻頭エッセイ
私たちの「生活支援ボランティア活動：助け合い活動」　1
生協の（未来の）あり方研究会 研究集会
人間らしい市民社会を築く生協運動の未来を考え合う！　2
岐阜地域懇談会　第9回岐阜のつどい
「2度目の訪問・あの石徹白 進化した姿を確かめましょう」　3
おさそい集中月間に取り組んで　4
情報クリップ　5～7
企画案内・書籍案内　8

研究センター　9月の活動

2日(水) 研究フォーラム（パネル）食と農ベルファーム見学
5日(土) 共同購入事業マイスターコース第3回
8日(火) 三重のつどい　世話人会
10日(木) 理事ゼミナール第7回
11日(金) 岐阜地域懇談会世話人会
12日(土) 東海交流ファーラム実行委員会／公開学習会
13日(日) 研究フォーラム（パネル）環境世話人会
再生可能エネルギー学習会
14日(月) NEWS編集委員会
16日(水) 常任理事会
17日(木) 三河地域懇談会実行委員会
24日(木) くらしを語り合う会

生協の（未来の）あり方研究会　研究集会　　文責：事務局

人間らしい市民社会を築く生協運動の未来を考え合う！

７月２６日（日）「ワークライフプラザれあろ」に於いて、生協の（未来の）あり方研究会研究集会「人間らしい市民社会を築く生協運動の未来を考え合う！」を４８人の参加で開催しました。当日は３人のゲストスピーカーをお招きし、それぞれ講演を行っていただき、研究会のメンバーがコメンテーターを務め、意見交流しました。ここでは紙面の関係から、研究集会の目的、ゲストスピーカーのみなさんにお話しいただいた一部を紹介させていただきます。今後は報告冊子を発行する予定です。

コーディネーター：小木曽　洋司氏（中京大学）

本日の研究集会のテーマは、「人間らしい市民社会を築く生協運動の未来を考え合う！」としました。「人間らしい市民社会」というのは新しいつながり方のことだと思います。ウィルキンソンとピケットが「平等社会」という本を書いています。その本には「経済成長に代わる次の目標」という副題がついています。国別の経済成長を見ていると、寿命と相関させると途中から伸びなくなります。もう一つ幸福感との関係で経済成長を見ると、確かに相関はありますが、説明できない幸せ観の国があります。この幸せ観を規定するのは何かと考えます。どうもそれが「つながり」らしいということです。「平等」ということと、「つながり」が幸福感を規定しているようです。人々が幸せ感を感じる時、経済であるとか、人種であるとか、説明要因をはずしていくと、説明要因として残るのは「市民的つながり」とだということです。本日はこの「つながり」をどうつくるかということを課題に、新しい方向性を具体的に論じていただきたいと思います。

Ⅰ．菊谷　宗徳（きくや　そうのり）氏（エフコープ生活協同組合代表理事　理事）

この間、職員と、組合員さんたちと一緒にやってきたことを、かいつまんでご説明し、将来に向けて今のエフコープが、これからどういうふうに生協運動をやっていくのか、お話をできればと思います。

これからの生協を考える上で、エフコープの理念「ともに生き、ともにつくる、くらしと地域」にこめた思いは、将来にわたって変わることなく、目標としてやっていけば間違った形にはならないと思います。「ともに生き」ということでは、お互い認め合い、助け合って生きることを大切にするということです。「ともにつくる」とは、一人一人、人間として尊厳を大切にすると同時に、他人まかせにせず自らの行動で責任を持つということです。そして、「くらし」は不安で厳しい現実があります。そこに、「地域」と一緒に関わりを強め、役に立つ生協にしていこうという思いが込められています。その通りに具体化できればいいと思っています。

Ⅱ．鈴木　蔵人（すずき　くらと）氏（全国生協労連　副委員長）

２０００年度に労働者と労働組合のアンケートを実施しました。これは、２１世紀の生協労働運動をどう構築するか考えようと実施したものです。報告をまとめ、委員会等をつくり議論し、それが結実したものが２００４年度からの第５次中期計画です。そして２０１１年度からの第６次中期計画につながっています。そこで確認したことは、労働する個人を尊重すること、ディーセントワークとジェンダー平等社会を実現しようという大きな二つの課題を確認し、今取り組んでいます。

Ⅲ．加賀美太記（かがみ　たいき）　氏（就実大学）

組合員さんはよい意味でも悪い意味でも、一般の消費者さんとはこれまで区別される存在でした。そうした組織的な特徴、消費者の特殊性に支えられて、先ほどまでの経験豊富な実践報告がありましたが、生協は独自の価値をもつブランドとなり、紆余曲折や苦労はありましたが、７０年代以降成長をとげ、日本における流通の一角を担う存在にまでなったと考えています。ただ、この間、いろいろ生協自身が苦労していること、あるいは大手流通業の変化とか、消費者・組合員の生活スタイルの変化とかに伴って、これまで生協の強みとなっていたような組織や消費者における特徴や特殊性、オリジナリティ、ユニークネスが弱まっていないだろうかということが、最近の問題・関心になっています。今回はそれを、商品や購買事業の面から検討したいと思います。

岐阜地域懇談会　第９回　岐阜のつどい―岐阜を知ろう！つながろう！報告　　文責 事務局：

２度目の訪問・あの石徹白、進化した姿を確かめましょう

８月２０日　第９回岐阜のつどい「２度目の訪問・あの石徹白、進化した姿を確かめましょう」をテーマに石徹白を２３名で訪問しました。参加者は、岐阜・愛知・京都　からと、多岐にわたりました。

↑小水力発電の電気による農産加工所　働く若者より話を聞く

第９回　岐阜のつどいスケジュール　平野さんの案内で
- ◇　農産加工所の見学　トウモロコシ粉の加工
  （加工所の電気の一部を上掛け水車で賄っている）
- ◇　県･市による石徹白１号用水発電所（63ｋW）の見学
- ◇　食事をとりながら、地域のお話　（石徹白農業用水農業協同組合の設立・移住した家族について）
- ◇　移住された黒木さん･稲倉さん宅訪問・交流

↑シンボルの小水力発電（らせん型水車）

↑行政が運営する発電所の発電機

↑地元の女性が運営する「くくり姫」で食事交流

石徹白では２００７年より、地元の「ＮＰＯ法人やすらぎの里いとしろ」が小さな水力発電の導入を進めてきました。この小さな水力発電が地域づくりにさまざまな波及効果をもたらし、農産加工所が再稼動し、全国各地から年間数百人の視察が訪れるようになり、女性有志がカフェ―お昼をここでいただいた―を開設。水車が設置されている農業用水は、明治時代の人たちが山の中を３キロにわたって手掘りで川から水を引いてきて作り上げたものです。この水路自体が、約７０メートルの高低差があり、いずれはそこで１００ｋW程度の発電をしたいと平野さんたちは考えていました。２０１１年、岐阜県庁から「この農業用水を使って小水力発電をやらないか？」と持ちかけられましたが、「行政が１００％お金を出し、地元には管理料を支払う」という内容でした。地域の将来のためになる発電所のかたちとは？自治会で半年ぐらい議論をしました。その中で出てきたこと―水力発電をやりたくてやるわけではない。ここの集落を将来残していけるか。昔の人がどう暮らしてきたのか。大正時代全戸で出資して発電所を作って全戸に電線を引いた。山奥の雪深いところに住んで集落のために自分達で何かしらやってきて、今がある。地域でみんながやることが減ってきている。もう一度地元の人たちが、将来のために一丸となって、何かに取り組まないといけない。そのきっかけに水力発電がなればいい―結果、行政の発電所と、地元出資の発電所、二つを建設することになりました。

そして、発電所建設のために「石徹白農業用水農業協同組合」を設立、設立趣意書の一部を紹介します。

・・・先人たちは、この地域で暮らしていくために、さまざまな工夫をしながら皆で力をあわせて地域をつないできました。白山信仰、焼き畑、山仕事、百姓仕事、結の作業、道刈り、などなど、数え上げればきりがありません。石徹白の田んぼに水を送っている農業用水もその中の一つです。明治時代の人たちが朝日添川から３Kmの水路を手掘りでつくってくれました。そして毎年春と秋に、集落総出で「ゆざらい」を行うことで、用水の維持管理を行ってきました。１００年近く続くこの作業のおかげで、石徹白の田んぼではお米を収穫できるようになりました。―略―

私たちは、この農業用水での小水力発電地域を挙げて一致団結して取り組みます。このことによって、先人から受け継いだ農業用水を次世代に引き継ぐとともに、売電益を石徹白地域の農村振興に役立て、この石徹白が将来にわたって存続していくことを目指します。先人たちがこの地域で暮らしていくために努力をしてきたように、私たちもこの地域を次世代に引き継ぐために、精一杯取り組んでいきます。　―略―

おさそい集中月間に取り組んで

文責：伊藤小友美

地域と協同の研究センターでは、２０１５年度、６月１日～７月３１日の二ヶ月間を「おさそい集中月間」として、会員を増やす活動に取り組みました。この研究センターニュースの誌面では、１３０号と１３１号で、＜研究センターの会員になりませんか。会員のみなさんから、まだ会員でないあなたへ。＞と題して特集記事を組み、２６名の会員の方からの個性あふれるおさそいメッセージをご紹介しました。

この二ヶ月の間に会員になった方は、正会員５名、賛助会員１４名です。

意欲的におさそいに取り組まれた、生活協同組合コープみえ執行役員の竹内輝彦さんより、以下のメッセージをいただきました。

研究センターのおさそい月間に取り組んで

竹内輝彦（生活協同組合コープみえ）

地域と協同の研究センターのおさそい月間について、まず始めに、コープみえの中でどの様な方々に加入の声掛けするかを考えました。

ただ単に加入してもらうだけなら、未加入の方々に声かけすればいいですが、おさそいする私としても、少なからずともお金を出してもらい、せっかく加入してもらうのなら、研究センターで取り組まれていることが、その方々の自身の関心ごとに役立ててもらえること、生協の中で自身の業務に少なからずとも活かせ、研究センターが取り組んでいる様々な事柄に参加してもらえそうなことなど、誘ってもらって良かった、加入して良かったと思ってもらえることを想定して、この方々にとピンポイントでおさそいの声掛けをしました。

加入された方々は、研究センターのイベントや研究フォーラムに参加したり、研究センターＮＥＷＳなどの広報誌で情報収集したりと、自身の業務にしっかりと活用してもらっています。

今後も、このような方々が東海３県の中で、生協はもとより多くの協同組合関係者や一般の方々にまで広がっていくことを願っています。

新しく会員になった方からは以下のお声をいただきました。ご一緒に、研究センターの活動を広げていきましょう。

研究センターのことは聞いていましたが、会員になるきっかけがなかったので、さそっていただいてよかったです。日常の仕事が忙しくて、なかなか研究センターでの企画には参加できませんが、会員になって研究センターがちょっと身近になった気がします。情報をいただいて、いつも気にしてみています。フェイスブックでも、いろいろな学習会などにおさそいいただいていて、感謝しています。フェイスブックいつも見ていますよ。　　Ｓ・Ｙ

地域担当から本部へ異動になり、環境を担当することになりました。今まで知識もなかったので、「研究フォーラム環境」に参加できて、とても役立っています。

以前、「共同購入事業マイスター」研修にも参加して、「あいち」や「ぎふ」の方々と交流できてから、ものの考え方が変わりました。ほかの生協の方々と話をすることはとても刺激になります。

春には、浜岡原子力発電所の見学会に参加しました。全然知らなかったので、現地へ行って自分の目で見ると、見方も考え方も変わることを実感しました。これからもいろいろな企画に参加したいと思います。　　Ｍ・Ｉ

今年度の加入目標を、

個人正会員：３０名、　個人賛助会員：３０名、
団体正会員：２団体

と総会で決めました。引き続き、会員のみなさんのお力添えをいただきながら、おさそいをすすめたいと思います。研究センターのことをお知らせしたい団体や個人の方々をぜひご紹介ください。リーフレット等をお送りします。多方面から情報をお寄せいただければ幸いです。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

これからもご一緒に、協同の力で幸せな未来を探りましょう。

情報クリップ

メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税抜)
▸自然と共生するために 生協ができること ＮＡＶＩ 2015.9 762 日本生活協同組合連合会	**特集　自然と共生するために生協ができること** ＜コープのある風景＞　わかやま市民生協 ＜つながろうCOOPアクション情報＞ 特別対談　復興庁竹下亘大臣・日本生協連　浅田克己会長 ＜こんにちは！生協女子ですっ！＞　コープやまぐち　中村祥嘉さん ＜元気な店舗の運営を学ぶ＞　大阪いずみ市民生協・コープいこらも～る泉佐野 ＜宅配・現場レポート＞　みやぎ生協・仙台東センター ＜生協大好きママコプ山さんの　教えて！CO・OP商品＞　CO・OP焼きおにぎり ＜商品の産地より＞　北海道野付漁業協同組合 ＜想いをかたちにコープ商品＞ 「ひろげようラブコープ～組合員のつどい」 ＜CO・OPニュースフラッシュ＞　エフコープ　京都生協 ＜明日のくらしささえあうCO・OP共済＞　コープさっぽろ ＜生協職員のための接遇・応対の基本＞ 第6回　信頼関係を築く接遇対応 ＜この人に聴きたい＞　ロックシンガー　／　ダイヤモンド☆ユカイさん	2015年 9月 A4版 35頁 定価 350～円
▸協同組合学会 第34回大会 協同組合研究 2015.6 95 日本協同組合学会	**特集　日本協同組合学会　第３４回大会** **基調講演** 「男性稼ぎ主」型の悲惨な現実と脱却の道 －非営利・協同セクターが共倒れしないために－　大沢真理 **シンポジウム** 協同組合は労働の有り様をどのように考えてきたか 座長解題　清水みゆき 第1報告　協同組合における労働のあり方を問う－選べる働き方と参加　柳沢敏勝 第2報告　協同組合の組織優位性は労働現場にあるのか －まだまだ働きにくい女性側の視点から－　近本聡子 第3報告　生きにくさを抱える若者と共に働く・暮らす ～ワーカーズ・コレクティブによるコミュニティワークの実践～　中村久子 全体討議・座長まとめ **地域シンポジウム** 地域の資源とくらしを守り支える協同の取組み　－愛媛県下の実践－　板橋　衛 **論文** 認証農産物の地産地消活動を通じた地域協同組合としての農協の役割 －直売所や朝市を活用した「ファームマイレージ運動」を事例に－　青木美紗 農協内人的ネットワークの形成 －職員のネットワークの構想とWeb掲示板の分析－　山口洋平 **研究論文** 生協に対する視覚障害者の意識に関する研究 －個別宅配の役割について－　間々田理彦 **事例報告・資料紹介** 生協が回収する廃食用油の品質と地域的資源としての特徴 －岩手県を事例として－　野中章久	2015年 6月 B5版 152頁 定価2160円

▸JA改革への対応
～わたしたちの実践～

月刊ＪＡ

2015.9
727

全国農業協同組合中央会

特集　JA改革への対応
～わたしたちの実践～

－現状の問題点を超えた新たなJAグループへの移行への提言
杉浦宣彦（中央大学大学院教授・JAグループの自己改革に関する有識者会議座長）

都市農業を都市の側から考える
中井検裕（東京工業大学大学院社会理工学研究科教授）

地域におけるJAグループの取り組み　～実践報告に学ぶ
① 担い手・法人のニーズに応えるサポートセンターを目指して
JAグループ鹿児島（JA鹿児島中央会）
② “雪国”“米どころ”の直売所における園芸定着化への挑戦
JAえちご上越
③ 直売所の“ネット化”と“地産都商”で地域の活性化を目指す
JAしまね雲南地区本部

JA全中会長就任にあたって　第14代全中会長　奥野長衛

・地方紙ニュース　第54回
「風評」と「風化」－　震災4年6ヶ月「二つの逆風」と闘う福島農業
桑田広久　（福島民友新聞社）

オピニオンリーダーに聞く　林 修

・JAトップインタビュー　地域と農業を守るために家族農業・都市型農業を生かす
広島県JA広島中央　代表理事組合長　徳永邦雄

・展望　JA の進むべき道　ICA10年計画と第27回 JA 全国大会
大西茂志（JA 全中専務理事）

・海外だより　連載　52
［D.C 通信］アメリカ東海岸のファーマーズマーケットを訪ねて　中村岳史

次代へつなぐ協同実践塾
・ 人材育成について考える（2）　「育てる」と「育つ」の違い
JA 全中教育部

2015 年
9 月
A4版
50 頁
年間購読料
4,800 円
（送料込）

▸時代の変化に応える
宅配事業の革新

生活協同組合研究

2015. 9
476

（財）生協総合研究所

■ 巻頭言　逆流と大脱線　－アベノミクスと社会保障政策－　大沢真理

▸特集　時代の変化に応える宅配事業の革新

食品宅配事業の現状と展望
川崎順子

信頼感とブランド力が生協宅配の強み　求められる顧客利便性
白田　茜

ICT技術がもたらす宅配事業のイノベーション
折笠俊輔

食の砂漠（フードデザート）問題の実態と宅配事業の課題
岩間信之

座談会
時代の変化に応える宅配事業革新の戦略
太田俊也　村上正幸　濱西仙欣　稲橋邦彦　小方 泰

コラム1
海外のオンライン食品小売の動向　佐藤孝一

コラム2
宅配事業の相対的な環境効率の良さをどう経営と社会に生かすか
山本芳華　傘木宏夫

■ 海外情報
ICAパリ研究国際会議報告 ①　鈴木 岳

■ 時々再録
新しい地域自治システムの可能性
－第14回コミュニティ政策学会から－　白水忠隆

■ 本誌特集を読んで（2015・7）　樫原弘志　有田芳子

■ 新刊紹介
サリー・サテル＆スコット・Oリリエンフェルド著
『その（脳科学）にご用心　－脳画像で心はわかるのかー』　宮崎達郎

2015 年
9 月
80 頁
B5 版

▸少子高齢化と地域医療

文化連情報

2015. 9
450

日本文化厚生農業協同組合連合会

農協組合長インタビュー（20）
今を乗り切るために徹底した意識改革を　斉藤 繁「
ますます厳しくなる医療・介護分野の抑制策　山田尚之
二木学長の医療時評（133）
地域包括ケアシステムにおける供給と編成　－医療経済・政策学の視点から
文化連第67回通常総会を開催
第64回日本農村医学界学術総会開催にあたって　菊地顕次
第37回農協文化賞（経済事業部門）「わが体験と抱負」　宮武利弘
第37回農協人文化賞にあたっての「わが体験と抱負」　守田知明
医療介護問題を読み解く（3）地域医療構想　池上直己
新公立病院と生き残り戦略　栗谷義樹
第十回東海地区厚生連医療材料購入対策会議報告　増田青吾
農村医学運動は世直し運動！～私の歩んできた道(6)
若き医学徒の悩み　小山和作
福島原発事故被災と健康の将来（1）原発災害と再稼動　安藤 満
地域産業との連携による再生可能エネルギーの新展開(4)
空港での太陽光発電事業の展開　－岡山空港を中心に　大平佳男
伊勢原協同病院の病院給食（8）パパ＆キッズクッキング　石井洋子
病院建築と環境（2）地球環境と建築のエネルギー　富樫英介
野の風●　食の記憶　穂積那都
デンマーク＆世界の地域居住（76）
イギリスの訪問介護：非営利組織「ローカル・ソリューションズ」　松岡洋子
グーテンタック、ドイツ（12）ドイツ料理の魅力ーソーセージ編　鵜殿博喜
オスペダーレ・マッジョーレ・ボローニャ(3)
ボローニャ市AUSLの地域医療政策　小磯明

2015年
9月
B5版
88頁
文化連情報
編集部
03-3370
-2529
＊注

▸21世紀の協同組合研究（協同組合原則と協同組合連帯）

協同の発見

2015.7
272

協同総合研究所

■巻頭言　協同組合の「協同」の意味　堀越芳昭
（協同総研　顧問／山梨学院大学　元教授、現非常勤）
■特集　２１世紀の協同組合運動②（協同組合原則と協同組合連帯）
・特集にあたって　相良孝雄（協同総研　事務局長）
・全国段階の協同組合間連携の取り組みについて
前田健喜（JA全中協同組合連携課　課長／IYC記念全国協議会　事務局次長）
・イタリア協同組合連合会の目的と経緯について
佐藤紘毅（市民センター政策機構　研究員）
・協同組合憲章とワーカーズコープ原則
富沢賢治（協同総研　顧問）
■海外レポート
【連載第6回】イギリス労働者協同組合の現状　資料イギリス労働者協同組合行動規範
松本典子（駒澤大学経済学部准教授　／協同総研理事）
・フランス　生産協同組合の規定に関する法律（労働者協同組合法／2015年版）
Loi n78-763 du 19 juliet 1978 portant statut des societies cooperatives de production
Version consolidee au 15 juin2015
（訳責）協同労働法制化市民会議　／　日本労協連法制化対策部　島村博
・日韓若者国際交流フォーラムに参加して
扶蘓文重(センター本部　事業推進本部　／会員)
・韓国の若者支援施設の視察を通して見えたもの
上村俊雄（センター事業団但馬地域福祉事業所）
■書籍紹介
・「地域を変える高校生たち」宮下与兵衛　著・編集（共著）
玉木信博（日本社会連帯機構　事務局長　／　協同総研　理事）
・「武蔵野の歌が聞こえる」～荒れ野を協同の大地に変えた川崎平右衛門　－木村快著
相良孝雄（協同総研　事務局長）
■会員だより　石澤香哉子(横浜市立大学)

2015年
7月
B5版
87頁
定価1300円

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの（✤）などを中心に順不同で紹介しています（主な内容は目次等から事務局が要約しています）。　詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

第63回（2015年度）日本村落研究学会のご案内

「岐阜のつどい」でも訪問した和良での研究会で、地域シンポでは集落点検の活動発表があります。

日程：11月6日（金）～11月8日（日）　**会場**：和良町民センター（岐阜県郡上市和良町沢677-1）
宿泊：旅館・民宿7軒（郡上市明宝5、和良町1、下呂市金山町1、）に分宿

旧和良村役場は、市役所支所として和良振興事務所になりました。平成23年からは、徳野貞雄先生のＴ型集落点検を導入し、地域おこし応援隊の活用と合わせて、持続可能な集落を目指し、スローな地域づくりを進めています。今回の大会は、郡上市及び地元観光協会のご協力を得て、エスクカーション、研究報告、地域セッション、懇親会等のプログラムを用意しております。会場は郡上市和良町の中心部にある和良町民センターとなりますが、宿泊は計７か所の分宿となります。移動などでご不自由をおかけしますが、農山村ならではのおもてなしの心で、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

主な大会プログラム：１１月７日(土) 15:00～16:30　地域シンポジウム（大会議室）
テーマ：**集落点検をどう活かすか**　　進行：林琢也（岐阜大学地域科学部准教授）
報告者：池戸祐芳（和良おこし協議会会長）和良町上土京自治会　和良町下洞自治会　　和良町横野自治会
加藤真司（和良おこし協議会事務局長）コメンテーター：足立重和（追手門学院大学教授）　徳野貞雄（トクノスクール・農村研究所理事長）　山崎仁朗（岐阜大学地域科学部教授）
11月8日（日）9:00～14:45　テーマセッション（大会議室）　（12:00～12:45昼休み）
「現代社会は『山』との関係をどう取り戻すことができるのか」　　コーディネーター：藤村美穂（佐賀大学）
【連絡先】（大会実行委員長）山崎仁朗（Eﾒｰﾙ）kimiaki__gifu-u.ac.jp
●一般参加費：地域シンポジウムの参加は無料です。その他の参加は1日1000円です。
●お申し込み方法、概要、スケジュールなどの詳細について⇒日本村落研究学会のホームページの大会案内
http://rural-studies.jp/association2015.html#04　をご覧ください。

書籍案内

チンチン電車と女学生　1945年8月6日・ヒロシマ　講談社文庫
著者：堀川惠子・小笠原信之　出版社：講談社　定価：本体730円（税別

内容：この本は、２００５年に日本評論社から出版され、２０１５年講談社から文庫化されました。今年の夏、８月１０日にＮＨＫで放映された、「一番電車が走った」を見られた方も多いのでは、ないでしょうか。復興に向けて動き出すチンチン電車のお話です。このドラマの中にもでてくるのが、１９４３年（昭和１８年）に開講した「広島電鉄家政女学校」です。１９４５年８月６日に、爆心地から２．７ｋｍにある学校は、原爆の投下と共に校舎が燃えてしまいます。被爆、そして敗戦から１ヶ月あまり経った９月１７日に枕崎台風が来ます。強烈な追い討ちだったようです。この日に、女学生が集められ学校の解散を言い渡されました。３年と言う短い間の激動の日々をつづった本が、「チンチン電車と女学生」です。夢ある１４歳をお金を稼ぎながら学校に進学できるという誘いで進学し、男子が出兵するので運転手や車掌がいない、半年の訓練で車掌、運転手となっていく。そして被爆をする。戦争のむごさを表しています。また、この「広島電鉄家政女学校」のことを探しあてたのが、著者の堀川恵子さんです。その執念がすごいと思います。そして、被爆後もほとんどの被爆した路面電車の写真が米軍で撮影されていたという。本当に実験の為に原爆を落としたと実証する出来事です。この１０年で登場する元女学生の多くが鬼籍に入られたそうです。今後の平和運動の展望も与えてくれそうな本です。　　紹介：岡本一朗氏

2015年9月25日発行（毎月25日発行）
定価200円
（税・送料込み。年会費には購読料が含まれています）
発行　特定非営利活動法人地域と協同の研究センター
代表理事　西　川　幸　城
〒464-0824　名古屋市千種区稲舟通1－39
TEL　052-781-8280　FAX　052-781-8315
E-mail　AEL03416@nifty.com
HP　http://www.tiiki-kyodo.net/

研究センター　１０月の活動予定

2日(金)～4日(日)協同組合学会　2日(金)協同の未来塾
6日(火)　尾張地域懇談会
9日(金)　三河地域懇談会ダム学習会「豊川の自然と設楽ダム」
12日(月)　共同購入事業マイスターコース
13日(火)　研究フォーラム職員の仕事を考える
15日(木)　常任理事会
19日(月)　研究フォーラム（パネル）環境世話人会
20日(火)　くらしと生産をつなぐものづくり準備会
　　研究フォーラム地域福祉をささえる市民協同
21日(水)　国際協同組合デー準備会（愛知）
29日(木)　NEWS編集委員会
31日(土)　三河地域懇談会ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ「豊川の自然と設楽ダム」